



敬神の念・先人への敬意

静岡県護國神社・武道場 養浩館の歩み



1979（昭和54）年

静岡県護國神社・武道場として竣工

2002（平成14）年

静岡県剣道連盟道場「養浩館」と命名

*当時多くの大先輩が語り合い、その熱い思いを結束させ武道場建設を嘆願しました。その後、長い時間をかけて神社関係団体との約束事がまとまり、ようやく完成に至りました。

2022(令和4年)は、静岡県剣道連盟の設立から70年となりました。そして護國神社武道場(養浩館)も44年の歴史を刻んできました。この間多くの大会・稽古会、講習会等が行われ剣道・居合道・杖道の愛好者が集い巣立っていきました。

今なお厳かに佇む護國神社やその境内に凜として建つ武道場(養浩館)で修業できることへの喜びを「礼」に則り表わすことは「武道を嗜む者」の作法であります。

敬い護國の森に包まれて
我が身入りゆく剣の道なり

◎作法その1(神社境内)

神社に祀られる英霊(戦没者)への敬意

* 御社殿参拝や参道横断時に鳥居越しに正面から中央に向かって「一礼」する

◎作法その2(武道場内)

先人への敬意と互いに稽古の安全を願う

* 道場入退場時の一礼 神前への拝礼
互いにお相手への敬意と尊重の気持ちを丁寧な礼法で表す

◎作法その3(その他)

一般参拝者への配慮

* 駐車場利用の規則・マナーを遵守する
境内で多人数、大声等の会話を控える